

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2292300189		
法人名	医療法人財団 百葉の会		
事業所名	グループホーム花ごころも		
所在地	静岡県富士市岩本232-2		
自己評価作成日	平成24年3月10日	評価結果市町村受理日	平成24年3月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/BackTop.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階
訪問調査日	平成24年3月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループ理念である「自らが受けたいと思う医療と福祉の創造」にもあるように、自分自身が相手の立場になること、自分自身が受けてみたいと感じるサービス提供や日頃の関わりを大切にしている。介護度や認知症の状態に合わせた支援を行い、最期まで花ごころもで過ごして頂けるように多職種が連携しながら利用者の支援に努めている。また、楽しみがある生活となるように併設の小規模多機能事業所とも連携しながら、支援を行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

梅と桜で有名な岩本山の近くに立地し、平成22年度に新設された建物は内部に至るまで純和風で趣のある佇まいをみせている。地域との交流も盛んにおこなわれていて、毎年2月には地域の祭典「梅まつり」に模擬店を出展したり、定期的に地元児童クラブが来訪して踊りを披露してもらうなどの関係ができています。また事業所の秋祭りではカレー、焼きそばなど全国B級グルメの模擬店を出したり、「わんわん大サーカス」としてボランティアの動物サーカスが訪れて大好評だったという。市内のグループホーム交流会のイベントにも参加していて、他事業所と合同で運動会など交流イベントをおこなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を理解し、朝礼では職員行動指針を唱和することにより、理念を理解し、実践できるように努めている。	グループ全体で16都道県に200以上の事業所をもつスケールメリットを活かし「こやまケア」という名称で全国どこでも高品質なケアを提供できるように内部研鑽に努めている。事業所としては「断らない」ことを方針とし、介護技術を高めている気概を感じた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	事業所所在地である富士市岩松北地区の梅祭りに模擬店を出店したり、滝戸地区(地域)の夏祭りに参加している。また、岩松北児童クラブの生徒さんたちとの定期的な交流の機会を作っている。	事業所の秋祭り際には区長さん協力のもと2000部もの広告を配り、その結果地域から200名を越える参加があったなど、地域との関係は良好である。レクリエーション委員会が中心となり、慰問や習字教室の開催などボランティア活動の受入も積極的におこなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	平成22年7月認知症サポーター養成講座を主催して地域にむけての認知症理解の勉強会を開いたが、それ以降目立った活動は行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議内では、事業所での利用者の様子、行事報告を行っている。予定されている行事をお伝えし、ご家族の参加を呼び掛けている。	現在は半年に1回程度の開催に留まっている。市介護保険課職員や、地区民生委員、児童クラブ役員なども毎回参加している。運営や利用者の状態などを報告する機会となっている。参加者からは市職員に対して身近な質問が出る事もあるという。	今後、運営推進会議の開催回数が順次増えていく事を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では、富士市介護保険課の方、民生委員の方にも参加をいただき、助言を頂いている。	運営推進会議には毎回市職員の参加が得られている。また議事録を郵送で届けている。市は介護保険事業所のイベントに対して積極的にかかわっていて、例えばグループホーム連絡会や介護サービス研究集会などで協力し合う関係ができています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、会議で話し合う機会を持っている。施設内勉強会を開催し、拘束の防止に努めている。	事業所では玄関の施錠はおこなっていないため、むしろ離脱事故が起きたことを契機に見守り体制を手厚くしたこともある。身体拘束廃止のための勉強会を年2回おこない、例えばスピーチロックについてなど職員が意識的な発言をするようになる好機となっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束の勉強会に参加し学んだことを、介護の現場で実践している。スピーチロックについては、とっさに出た言葉をお互いに指摘し合いながら改善に繋げている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業にて、金銭管理、権利擁護を富士市社会福祉協議会と協同して行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書、重要事項説明書を詳しく説明し、納得を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会を行い、ご家族同士のコミュニケーションをとれるようにしている。	家族全員に運営推進会議への参加を呼びかけ、また議事録を発送している。今年度は家族を交えたBBQ大会なども開催している。機関紙は発行していないがブログを開設し、家族からの反響もみられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議、全体会議、各委員会の会議、リーダー会議をそれぞれ開催し、話し合う機会を設けています。	個人面談を定期的実施している。また、主任とリーダーの会議を月1回もち、主任を育てる教育の場として、またリーダーからの忌憚のない意見を吸い上げる場として役立っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シートに各自、目標を記入し、目標達成できるように努力している。定期的な面談を行い、目標達成へのフォローに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内、施設外の研修に参加する機会を設けている。外部研修で学んだことを、施設内勉強会で再度復習をしている。資格取得に向け、勉強会に参加できるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の取り組みとして、こやまケア会議を定期的開催し、その中では研修会、勉強会を積極的に取り入れ、他事業所との交流を持っている。また、富士市グループホーム交流会にて地域事業所とも積極的なかわりを持っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、本人から心配な点や要望などをお聞きし、安心して暮らせるように、関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、家族からの情報をもとに、利用者の気持ちを大事にし、ケアプランにて取り入れている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	センター方式を使い、家族に記入して頂いている。サービス提供していくうえで、必要なことを見極め、必要なサービスも取り入れている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員も事業所で一緒に暮らすものとして、利用者と共に食事をとり、家事を行い、ときに、「おたがいさま」の気持ち大切にしながら生活することを大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話での要望、相談、家族の目線での気づきを伺い、共に支援している関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に来ていただけるような雰囲気作りはもちろんのこと、外出先を以前住んでいた家の近くへ出かける事が出来るようにしています。	地域の祭典に参加したいとの希望や、親戚が経営している時計屋店で時計を修繕したいという希望を叶えるなど、馴染みの関係が継続できるように支援している。事業所で朝刊と夕刊を取り寄せ、配達される新聞を楽しみにしている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係に気配り、馴染みの関係が築けるよう、職員がコミュニケーションの橋渡しに配慮している。レクレーションの参加にて、利用者同士が楽しく過ごす時間が持てるように努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も、必要に応じて面会や電話での相談を行い、いつでも相談しやすい関係づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の何気ない会話や行動、その他の関わりの中で、不満や要望等の把握に努め困難な事情である時には、家族に協力を求め利用者にとって最善の方法を見つけだせるように努めています。	脳梗塞で左半身マヒの後遺症が残った利用者から「地元の人に恥ずかしい姿を見せたくない」との声があり、普段のコミュニケーションの大切さにあらためて気づいたという。気づいた内容はこれまで以上に丁寧に支援経過記録に記録し職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、関係者と馴染みの関係を築きながらお客様の過去の暮らしぶりや価値観等小さな事柄でも情報を伝えてもらえるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の介護の中で、気づいた事や、考えている方法等常に職員同士が、周知出来るように伝達を行なっています。その日にあった利用者の出来事等は、常に申し送り等での口頭伝達、記録として残しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する際に、必ずご本人、家族の意向を聞き、各担当者で話し合い作成している。また原案を本人、家族、担当者と再度確認している。	月1回のカンファレンスで利用者ごとの変化や生活の状態の話し合いがおこなわれている。担当制を設けていて、担当者が利用者の細かい生活状況を把握することで計画作成に反映している。ほぼ半年ごとにモニタリングし、計画の見直しをおこなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、介護記録をつけて一日の様子や心身状態を記録し、情報を共有している。出来ることや出来ないこと出来る可能性があることの把握に努めている。また、ケアプランに基づくサービスの実践に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状態変化やニーズの変化に対して柔軟に対応出来るように訪問歯科、マッサージなど、外部サービスを取り入れ出来る限り希望に沿えるように努力している。また、居宅療養管理指導による薬剤師訪問も始まっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月に数回の近隣市町村からのボランティアの訪問があり、小中学生が慰問や介護体験、見学などに来られ交流の機会を持っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医を選択している。協力医を確保し月に一度の往診がある。専門医への受診は家族の対応を依頼し、看護師が同行することもある。緊急時には協力医と連携をし柔軟な支援をしている。	事業所の近くに協力医が開業しているため、健康状態に変化があればすぐに連絡できる体制が整っている。入所時に主治医を変更するかどうか確認しているが、全員の利用者が協力医への変更に同意している。受診の際には看護師が付添い、結果は受診記録に残している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化時や気付き等は看護師と連携し必要であればご家族に連絡している。また、主治医に連絡し迅速に対応できるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期に退院できるように、入院先の主治医との連絡はこまめにおこなっています。時には様子を見に行きます。情報の提供を行う際は、ご家族と同伴し説明や情報の共有も行なっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所での看取りについて「出来る事」と「出来ない事」を説明し納得頂いた上でドクターの立会いのもと書面をかわしている。重度化した場合は、ご家族と医師、職員が方針を一つにし支援している。事業所においても、全職員で“看取り”について意見を聞き、勉強会に出席して理解を深めている。	現在までのところ、看取りの経験はない。今後は終末期のケアもおこなわれていくという見通しで、終末期に向けての話し合いをおこなったり、チームカンファレンスなどを充実させている。話し合いでは「自宅で看取るように、できるだけ負担なく」などの意見も挙げられている。	緊急時や急変時に備えた対応が充実することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命講習を受講し急変時、事故発生時の対応など職員全員の技術、知識を高めるように努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員の役割を明確にしお客様が安全に避難できるように、避難場所や地域の方との協力体制が築けるように努めています。年に数回は避難訓練を実施している。	年2回避難訓練を実施している。夜間想定訓練や地域住民を交えた訓練までには至っていない。万一の際には地域住民の協力も不可欠と考え、今後は防災について地域との協力体制の構築を目標としている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴では1対1で対応しお客様のプライバシーを守るよう努めている。身体拘束の勉強会でスピークロックをしていないのが職員同士で話しあい、みつめ直す機会がある。個々にあった言葉かけをしている。	新人職員の入社をきっかけに、職員自身の言葉かけや態度を振り返り、個々に反省している。「お客様」としての接遇を心掛け、呼称についても「おとうさん」や「~ちゃん」などと呼ばないように利用者の尊厳維持に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	昼食はメイン2品の中から好きな物を選ぶことができるセレクトメニューを実施している。誕生日企画では、本人のしたいこと、行きたい場所へお連れしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お1人で過ごしたい時間、大勢で過ごしたい時間を大切にしながら、個々の時間を大切にしている。 お客様の体調や気分によって日々関わりを配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	レクリエーションで、ネイル、メイクなどのおしゃれを楽しんで頂いている。男性の利用者は、毎朝髭そりの声掛け、介助を行っている。訪問美容師にも定期的に来て頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に準備、食事、片付けを毎日行っている。月1度の行事食を楽しんで頂いている。 個々の茶碗、箸、湯のみなど馴染みのあるものを使用している。	「食事は口で食べ続けられるように」という方針のもと、ADLが低下しても職員が食事介助している。目の不自由な利用者にも「〇時〇分の方向に〇〇がありますよ」と声掛けしたり、スプーンで口に運ぶ介助にも笑顔を欠かさない誠意ある対応がみられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事以外に9時、11時、15時に水分を摂って頂いている。水分量が特に少ないお客様は、個人のバイタルチェック表に水分量を毎回記入して、細めに補水している。食べる量が少ないお客様に対してカロリーの高いジュースなど飲みやすいものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後必ず口腔ケアの声掛け、介助をしている。 夜間はポリデントを使用して消毒をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	数名の利用者が紙パンツから布パンツを使用できないか排泄委員会で検討して実際に布パンツを移行した。最後までトイレでという方針でそれぞれの利用者の状態に適した介助方法を行なっている。	「オムツを使わないケア」「トイレで排泄できるケア」という方針をもち、足がしっかり接地できるなどハード面を整備し、生理学に基づいた介助方法をおこなっている。排泄の状態に応じて夜間はPTイレを使用するなど負担の少ない排泄環境も整えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を利用して、利用者の排泄リズムを分析したり原因を考え、その方にあった対応をしている。なるべくトイレに座り腹圧をかけて自然排便を促している。レクの体操で体を動かして頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間帯を決めずに、その方に合わせたお湯の温度調整を行ったり浴槽に椅子を入れたりと安全に配慮しながら気分良く入浴して頂けるように務めている。	ヒバ(木)製の浴槽を備え、浴室内は木目調で統一されている。浴槽は半埋め込み式になっていて、移動しやすいだけでなく、ゆったりと寛げる広さで設計されている。浴室からは小さな中庭が望まれ、ちょっとした温泉気分が味わえる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望や様子に合わせて休息を取って頂いている。昼夜逆転しないようにレクに促し体や頭を動かして頂いている。夜間は時間になったら寝るのではなく、満足されるまでリビングで過ごして頂き、その方に合わせて入眠して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の服薬しているものがわかる最新の薬ファイルがいつでも目に通せる場所に置いてある。 薬の勉強会を行い、薬の目的、副作用、用法、用量について理解を深めるように務めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に担当があり、その方の状況、要望を1番に考え対応するように務めている。日常生活では、料理作りの手伝い、皿洗い、食器拭きなどご本人の能力に合わせた役割を無理しない程度に楽しんで行なっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別外出を定期的に行なっており楽しみの1つになっている方もおられる。	事業所の周囲に流れる小川沿いを散歩コースに設定し、早咲きの桜を楽しみに散歩できる。誕生日には外食に出掛けたり、片道1時間かけて富士五湖までドライブに行く事もある。利用者は雪景色に驚いたり、楽しんでいるという。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の要望に合わせてお金を使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を本人がご家族に書いて頂いている。書けない方は職員が普段の様子をお伝えしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設が和の造りで温かみを感じられるので居心地よく過ごせる。花を飾り季節感を感じて頂いている。	玄関、廊下、共用空間とも和風のコンセプトが貫かれ、立派な建物に相応する飾り付けや雰囲気づくりがおこなわれている。通路の曲がり角やキッチン廻りなどは死角ができないように小窓が設置され、安全に生活できる様子が覗えた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下に椅子、リビングにソファを置いたり畳の部屋に座れるなどお好きな場所で過ごせるように工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に以前、自宅で使用していた馴染みのあるタンス、仏壇など置くなどして居心地良く過ごせるように配慮している。	各居室前には見やすく大きな表札が掲げられ、室内レイアウトをフローリングと畳敷きから選択できる。各居室は8畳間に加え床間もあり、使い慣れた筆筒などの家具を持ち込んでいても十分な広さが確認された。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	整理、整とんを心掛けお客様が安心して過ごせるようにしている。一人ひとりのできること、わかることを理解したうえで、声掛け、介助を行っている。		